

環境経営レポート

＜2023年度版＞

活動期間：2023年4月1日～2024年3月31日



承認	調査	作成
24.06.01 滝澤	24.06.01 畑山	24.06.01 丸山



発行日：2024年6月1日

株式会社 ヒーテック

目次	1. 組織の概要	- 2
	2. 環境経営方針	- 3
	3. 活動組織及び役割分担	- 4
	4. 環境経営目標と実績の推移	- 5
	5. 活動計画及び結果、評価	- 6
	6. 適用法令と遵守確認	- 7
	7. 代表者の評価・見直し・指示	- 7
	8. 活動事例紹介	- 8

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

事業所名	株式会社 ヒーテック
代表取締役	滝澤 秀樹

(2) 所在地

本社・工場 〒382-0005 長野県須坂市大字小河原3954-21

(3) 環境管理責任者・連絡先

責任者 取締役工場長 畑山 修

連絡先 TEL:026-248-5711

FAX:026-248-5757

E-mail:info@heattec.co.jp

Home page: <http://heattech.co.jp>

(4) 事業内容《認証登録の範囲》 金属熱処理加工



(5) 事業の規模等

創業 : 1965年(昭和40年)4月1日

資本金 10,000,000円

敷地面積 8,961 m² (建物床面積 4,000 m²)

従業員 30名

(6) 事業年度 4月1日～3月31日

(7) 認証・登録範囲 全組織、全活動

環境経営方針

企業理念 『私たちは、熱処理を通じ社会に貢献します』

私たちは、仕事を通じて社会の発展に尽くし、生活と人間性の向上を図り業界のトップを目指します。

行動指針 正しく ・ 明るく ・ 前向きに

株式会社ヒーテックは、熱処理加工の生産活動に際して、下記項目を重点課題として環境保全活動に取り組みます。

環境方針

私たちは、豊かな自然と健康な地球環境を守るために、私たちの全ての事業活動において、関連するあらゆる法律、規則などを遵守し、環境への取り組みに関する目標を持ち、行動し、継続的改善を行い、社会の発展に貢献します。

1. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的に環境保全の改善活動に努めます。
2. 作業の効率化を図り、電力・エネルギーの使用量を削減します。
3. 水使用量の節減を図り、使用量の抑制を推進します。
4. 廃棄物の分別を行い、再資源化を高め、廃棄物を削減に努めます。
5. 使用する化学物質・鉱油等の削減を推進します。
6. 地域社会との共存を図るため、環境に関連する法規則等を遵守します。

品質方針 『最短の時間と最小の資源で最高の品質を』

私たちは、品質方針を達成するために、関連するあらゆる法律・規則などを遵守し、高度化する顧客満足度に対応すべく、方針・目標を定め、見直し、改善し、その品質マネジメントシステムを効果的に持続いたします。

制定日：2005年12月28日

改訂日：2024年 4月 1日

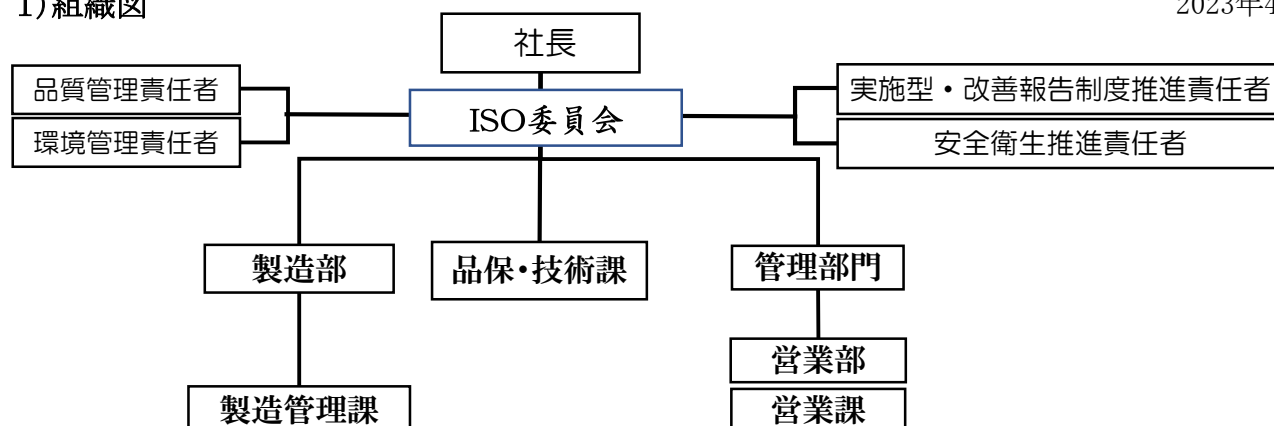
株式会社 ヒーテック

代表取締役社長 滝澤 秀樹

3. 実施体制

1) 組織図

2023年4月



※ 各テーマ別のグループを結成、責任者を任命して、改善活動を推進

2) 責任及び権限

社長	- 環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 - システムの構築・運用及び管理に必要な資源を用意する。 - 環境方針の設定・見直し及び従業員へ伝達を行なう。 - 社長による全体の評価と見直しを実施する。
管理責任者	- 代表者に代わりシステムの構築・運用状況を監視、結果を代表者に報告する。 - 推進委員会を定期的に開催し、活動内容と問題点の確認と改善を指示する。 - 法規制等の取りまとめを行い、遵守状況をチェックする。 - 環境目標を設定し、環境活動計画を確認し承認する。 - 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う。
事務局	- 環境管理責任者の補佐、推進委員会の事務局。 - 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック原案の作成する。 - 環境目標・活動計画原案の作成及び実績の取りまとめを行う。 - 環境活動レポートの作成、公開する(社内に備付けと地域事務局への送付)。 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口を行う。
推進委員会	- 環境管理責任者の指示のもと、環境経営システムの運用を行う。 - 方針に基づき、目標及び活動計画の策定を行い、承認を得る。 - 是正処置又は予防処置を実施、結果を環境管理責任者に報告する。 - 関連法規、等及び最新情報の収集と実行、順守確認のまとめ及び管理する。 - 活動の実績結果を収集、環境管理責任者に報告する。
部門責任者	- 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況を報告する。 - 自部門の従業員に対する教育訓練を実施する。 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理を行う。 - 緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練の実施と記録を行う。 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置を実施する。
全従業員	- 環境方針、環境目標を基本に定められた活動計画に従い業務を遂行する。 - 環境負荷の低減、品質向上、安全の確保と業務改善を提案する。 - 異常時、緊急時の報告を行う。 - 品質向上/安全及び環境リスク低減のための提案

4. 環境経営目標と実績の推移

環境目標・取り組みの基本方針

2012年度より、電力、LPG、ガソリン、原単位(売上高)で取り組みを行う事にしました。

1) 事業活動が環境にどのような影響を与えているかを把握評価の結果から、電力使用量による二酸化炭素排出量が90%を占めており、これを重点課題として取り組みます。

2) 多種の化学物質を使用しておりますので、安全管理と使用量の多い4種の削減を目標として取り組みます。

環境中期数値目標と結果

第10期 環境活動

※上段計画、下段実績と評価

環境目標		2022年度 (基準年)		2023年度 23年4月～24年3月		2024年度 24年4月～25年3月		2025年度 25年4月～26年3月	
1	CO ₂ 排出量 ※1 (kg-CO ₂ /千円)	4.38	目標	4.38	100 %	4.38	100 %	4.38	100 %
	実績		4.48	×					
	CO ₂ 排出量実績(総量) (ton-CO ₂)	1551.3		1633.7					
2	電気使用量の削減 (kWh/千円)	8.60	目標	8.60	100 %	8.60	100 %	8.60	100 %
			実績	9.21	×				
3	ガソリン使用量の削減 (ℓ)	1,454	目標	1,454	100 %	1,454	100 %	1,454	100 %
			実績	1,427	○				
4	軽油使用量の削減 (ℓ)	9,810	目標	9,810	100 %	9,810	100 %	9,810	100 %
			実績	9,914	×				
5	LPG使用量の削減 (kg)	4,542	目標	4,542	100 %	4,542	100 %	4,542	100 %
			実績	4,579	×				
6	都市ガス使用量の削減 (m ³)	10,270	目標	10,270	100 %	10,270	100 %	10,270	100 %
			実績	7,855	○				
7	水使用量の削減 (ℓ/千円)	42.0	計画	42.0	100 %	42.0	100 %	42.0	100 %
			実績	47.5	×				
8	一般廃棄物の削減 (kg/月)	69.2	計画	69.2	100 %	69.2	100 %	69.2	100 %
			実績	54.2	○				
9	化学物質の削減 ※2 (ℓ)	12,450	計画	12,450	100 %	12,450	100 %	12,450	100 %
			実績	4,350	○				
10	自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	不良件数、損失額の削減について、現状把握・分析中			－		－		－

※1 CO₂排出量算出基準(電力)

購入電力×23年度中部電力実排出係数0.421kg-CO₂/kWhを使用。

※2 化学物質:ディップソール、クリーナー(NH, SD3, AR3)

※3 原単位の分母2023年度売り上げを使用

環境中期数値目標と結果

1. 前年度と比較して電気使用量が増加したのに対して売上が減少した為、千円当たりの電気使用量・CO₂排出量が増加した。

2. 新規設備充填用にクリーナーNHを購入した昨年に比べ、化学物質の購入量が大幅に減り目標を達成することが出来た。

3. 産業廃棄物の廃棄量はありませんでした。

5. 活動の結果と評価、次年度の取り組み

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

	活動計画	取組の結果	評価	次年度の取組
二酸化炭素排出量の削減	1. 電力使用量の削減(基準年比8%削減)	計画した内容の活動が出来た。		デマンド管理により電力使用量の削減につなげる。
	・昼休みの節電(消灯)		○	
	・エアコンの温度設定冷房28度、暖房20度		◎	
	・待機電気機器のスイッチ節電		○	
	・エアー漏れのチェック		○	
	2. LPG使用量の削減(基準年比8%削減)	計画した内容の活動が出来た。		掲示することで周知が出来た。
	・使用量、使用料金の把握と掲示		○	
	3. 都市ガス使用量の削減	夏場の使用量が減り削減活動は徹底して出来ている。		冬場の削減方法を節約週間の実施を推進する。
	・夏季の手洗いは水使用		◎	
	4. ガソリン使用量の削減(基準年比8%削減)	計画した内容の活動が出来た。		・ハイブリッド車への交換効果に期待。 ・点検のエコドライブの継続で削減につなげる。
	・社有車の日常点検、従業員車2回/年		○	
	・エコドライブ10の実施(急の付く運転禁止)		○	
	・適正時期のタイヤ交換(夏/冬、摩耗)		○	
廃棄物削減	5. 軽油使用量の削減(基準年比8%削減)	計画した内容の活動が出来た。		計画を継続する。
	・社有車の日常点検		○	
	・エコドライブ10の実施(急の付く運転禁止)		○	
	・適正時期のタイヤ交換(夏/冬、摩耗)		○	
化学物質	6. 一般廃棄物の削減(基準年比8%削減)	☆再生可能な紙を分別の意識を社内に浸透させた。		・工場内の点検と3S/5S活動を進めていく。
	・分別と再生利用の促進		◎	
	・計量と分別状況の点検		○	
用水	・ゴミ箱周辺の見回りチェック		○	
	7. 主要化学物質の使用量/使い方の把握	計画した内容の活動が出来た。	◎	引き続きSDSデータ、使用量、等から危険リスク解消への活動を続ける。
社会貢献	8. 水使用量削減(基準年比8%削減)	・清掃時に雨水を活用して、削減した。 ・雨水利用の意識が高まっている。		雨水の利用を継続する。
	・節水ラベル貼付		△	
	・水量調査で、水漏れ・使いすぎチェック。			
	10. 環境保全活動の推進	敷地内の清掃分担を決めて、自主的活動に移行。全員で認識した/活動が出来た。		敷地内担当者決め 2回/年 毎朝、朝礼前の清掃。
	・会社周辺のゴミ拾い(2回/年)		○	
	・敷地内は担当者を決めて分担する。		○	

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用される法規制等と現在までの遵守状況

当社の業務に適用となる義務規定(一部それ以外を含む。)の主な環境関連法規等とその主な内容

注)チェック欄…○:遵守 ×:不遵守 ✓:該当なし確認 (―:判断なし)

法規制等の名称	適用される事項 (施設、物質、事業活動)	証拠書類、等	判定
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属くず、 廃プラ、廃油等)の適正処理	契約書・許可書	○
		マニフェスト	○
水質汚濁防止法	屋外タンクの事故時の措置	事故の発生無し	○
下水道法	黒染め処理施設	水質計量証明書	○
騒音規制法	空気圧縮機 (7.5kW×2基)	-	○
振動規制法	空気圧縮機 (7.5kW×2基)	-	○
毒物劇物取締法	塩酸、硫酸、アンモニア等の管理	現場点検記録	○
化管法(PRTR法)	別紙化学物質リスト	作業記録保管	○
労働安全衛生法	使用化学物質のSDS入手と掲示	SDSの確認	○
フロン排出抑制法	フロン類使用機器(3基)の定期点検	点検表	○
	使用機器及び製品廃棄時の引き渡し	引取証明書	○
消防法(危険物)	メタノール、油脂類防油堤の管理	現地点検記録	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄物の引き渡し	引取証明書	○
大気汚染防止法	特定物質	事故の発生無し	○

(2) 違反及び訴訟の有無

上記環境関連法については、遵守チェックリストにより、確実に法規を遵守していることを確認しました。

下水道排水の立入検査を実施しましたが、指摘事項はありませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

【取り組みの評価】

1.前年度と比較して新規設備の立ち上げに伴い電気使用量が増加した為、千円当たりの電気使用量・CO2排出量が増加した。

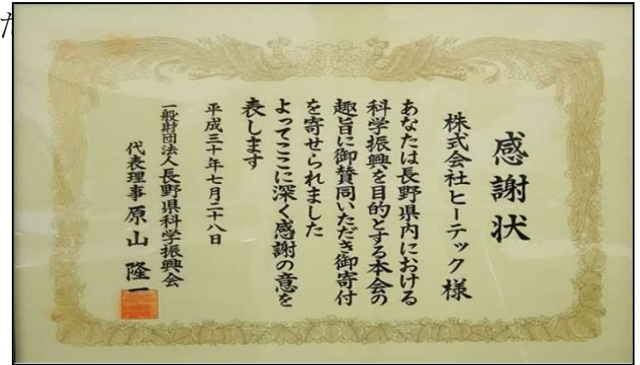
- ・一般廃棄物も梱包用ラップ、ポリ袋、荷ヒモなど原材料が石油系のものが主であるが分別の意識は社内に伝わってきている。

【今後の取り組み】

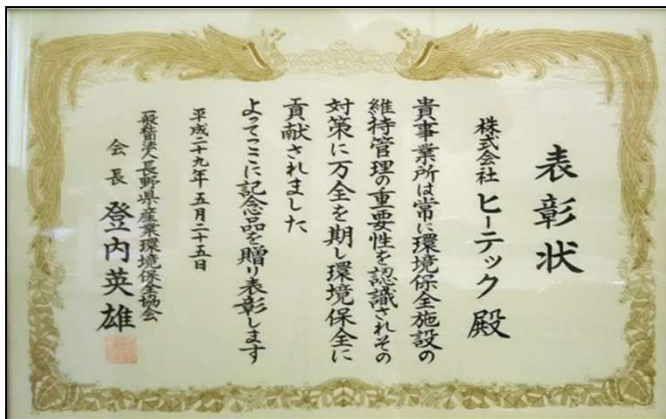
- ・次年度以降は、売り上げ状況が不透明なため、たとえ売り上げが落ちても電力、水の使用量を最低限にし、目標達成に近づける。
- ・節約、効率化を今以上に進めるため、炉の使用効率にデマンドデータから考察する。
- ・石油系材料の一般廃棄物の低減を自社を通し、顧客にも広げ、エコ活動の努力と推進を顧客にも伝わるようにする。

8. 活動事例紹介

1) 長野県科学技術振興会より表彰いただきました。



2) 長野県産業環境保全協会より表彰いただきました。



3) 大型の雨水タンクを設置して、活用を拡大。用水の使用量を削減。
雨水用のタンクを改造して拡張。清掃作業、等への活用の拡大。



4) 一般廃棄物の分別倉庫(廃却分)



5) 廃棄置き場にテントを設置

